【溶連菌感染症】

溶連菌感染症とは

- A群β溶血性連鎖球菌という細菌がのどに感染して、のどの痛み、熱、頭痛、腹痛、吐気、嘔吐などがあり、体や手足に発疹が出ることもあります。
- 舌はｲﾁｺﾞのようになることがあります。
- 風邪と同様にうつる病気です。潜伏期間は2～4日です。

治療は

抗生剤を飲みます。①1日3回5日間か②1日2回10日間のどちらかです。
1日か2日で熱が下がり、のどの痛みも消えます。
しかし、**途中で抗生剤を飲むのをやめてしまうと再発することがあります。**
抗生剤をきちんと飲まないと合併症としてﾘｳﾏﾁ熱をおこしたり、きちんと飲み終えてもまれに腎炎をおこすことがあります。

家庭で気を付けること

- 家族にうつる？　兄弟や保護者、ご家族の方に同じような症状があれば受診してください。
- どんな食事？　のどが痛いときは、熱いものや辛いもの、酸っぱいものは避けましょう。
- 入浴していい？　熱があっても元気であればかまいません。
- 保育所・学校は？　治療開始して、翌々日に熱がなければよいです。

こんなときはもう一度診察を

- のどが痛くて水分が取れないときや、内服していても熱が続くときは血液検査・点滴をする場合があります。
- 血尿、むくみなどの腎炎の症状（2～3週間後頃に）があれば必ず受診してください。
（明らかな腎炎の症状がない場合の検尿は、実施しないこととしました。）

予防接種

発熱があった場合は解熱後1週間してから、発熱がなかった場合は症状がなくなり内服終了後に接種可能です。

坂ノ市こどもｸﾘﾆｯｸ
大分市坂ノ市西1－7－8
（097）593－2202

2019年5月改定